鳥取県における音楽文化の振興に関する研究
―「若き音楽家のためのおさらい会@米子」の実践と出演者へのアンケート調査から―

山川 智馨[1]（Chika YAMAKAWA）・竹田 圭助[2]（Keisuke TAKEDA）
鳥取短期大学 幼児教育保育学科[1]　日本政策総研[2]

【背景および目的】

地域における芸術文化の振興を考えるうえで、人材育成の観点から地元で生まれ育った者への支援は欠かせない。小泉（2009）[1)]は音楽祭を構成する諸要素のうち、若手演奏家への専門教育支援事業を第１象限〈芸術発信重視×新たな文化創造〉として提唱している（図１）。この小泉の提唱する諸要素は、音楽文化に関する事業全体に広げることが可能である。鳥取県における地元出身の音楽家の発掘や活動支援は、これまで同県文化振興財団が主催する地元アーティスト支援事業ピアノ・声楽・管弦打楽器オーディション（2002～2007 年まで開催）やクラシックアーティスト・オーディション（2010～2017 年まで開催）がその役割を担ってきた。しかし、演奏者として育ち、生まれ育った地元で活躍するためには、より気軽に参加でき、学生のうちから定期的に人前で演奏することで、自らの知名度を上げるとともに、出演者同士が切磋琢磨できる場が有効ではないかと申請者らは考えた。

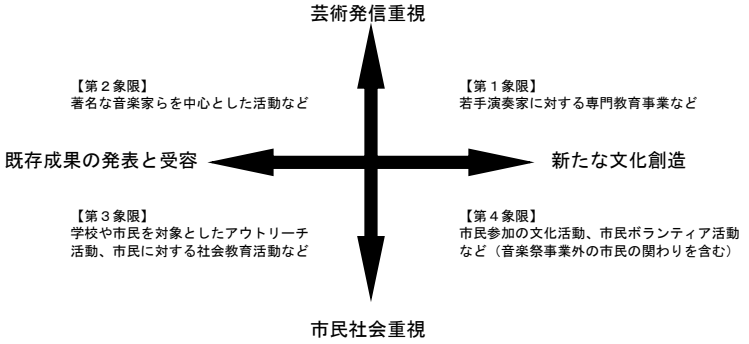

図１　小泉（2009）による音楽祭を構成する諸要素
※単独の音楽祭が複数の要素を持つ場合もある
※申請者作成

上記の問題意識のもと、申請者らは下記の３つの場の提供を目的とし、2014 年に「若き音楽家のためのおさらい会@米子」（以下、「当会」とする。）を立ち上げ、共同代表として運営を続けてきた。

①地元の皆様へ名前を知っていただき、自分の学びの過程を還元し、応援していただく（地元の皆様に愛される）きっかけとなる場の提供［知名度の向上］
②地元出身で音楽を勉強している学生等のゆるやかな繋がりをもたらす・深めるきっかけとなる場の提供［つながり］
③お互いの演奏を聴きあい、刺激を受け、切磋琢磨するきっかけとなる場の提供［刺激］

当会は音楽大学への進学を目指す高校生や現役大学生、卒業生を参加対象とした無料の演奏会であ

り、コロナ禍の 2020 年度を除いて毎年公演を重ねてきた。また、2018 年には米子市公会堂とコンサートを共催し、その翌年には公演回数を年１回から２回に増加させるなど、回を重ねるごとに活動の規模を広げてきた。これらの実績から、当会は小泉の提唱する第１象限〈芸術発信重視×新たな文化創造〉に該当し、鳥取県における音楽文化の振興に貢献する可能性を持っていると捉えることができるだろう。そして今後も持続可能な取り組みのもと、この目的を達成し続けることは重要な課題といえる。

そこで本研究では、当会が 2022 年度に実施した２事業への参加者（以降、「出演者」とする。）を対象に、当会への出演状況および上記①～③に関する満足度についてアンケート調査を行うことで、当会の取り組みにおける成果と課題を整理するとともに、地元で愛される演奏者が育つための音楽文化振興事業を展開する一助とすることとした。

【研究の概要】

当会の従来の取り組みである無料の公演「若き音楽家のためのおさらい会@米子」第８回公演の開催に加え、さらに本格的な演奏の場を提供し、当会の地域と出演者それぞれに対するさらなる貢献度を高め、持続可能な活動へと展開することを目的として、大学卒業生を対象とした有料の公演である「若き音楽家のためのおさらい会@米子コンサートシリーズ」を新たに企画した（表１）。

表１　両公演に関する内容

公演名	日時	チケット料金	会場
若き音楽家のためのおさらい会@米子 コンサートシリーズ vol. 1 小川智也&永井友梨佳　ハーフリサイタル	2022 年 12 月 27 日（火） 開演 14:00　開場 13:30	一般 1,000 円 高校生以下 500 円	米子コンベンションセンター Big Ship 小ホール
第８回若き音楽家のためのおさらい会@米子	2022 年 12 月 28 日（水） 開演 14:00　開場 13:30	無料	米子コンベンションセンター Big Ship 小ホール

調査項目は回答者の基本属性（性別、年齢、所属、居住地）、当会の出演状況、これまでの当会出演による当会の目的に対する回答者の状況、今回の出演による当会の目的に対する回答者の状況、今後の当会への出演希望、当会への感想や意見である。両公演終了後に調査目的や倫理的配慮について明記した依頼文を配布し、回答期限は 2023 年１月８日とした。アンケートは Google Forms で作成し、依頼文に QR コードを記載した。回答は単純集計およびクロス集計し、自由記述はコード化して類似する回答をまとめて集計した。

対象者への倫理的配慮については、回答は自由意思であること、アンケートの回答中でも研究協力を撤回できること、研究協力を拒否しても不利益が生じないこと、プライバシーに配慮すること、アンケートの回答をもって研究協力に同意したとすることについて、依頼文で説明した。また、実施にあたっては鳥取看護大学・鳥取短期大学研究倫理審査委員会の承認を得た（承認番号 2022-5）。

【結　果】

両公演の出演者計９名に依頼文を配布し、９名全員（回収率 100%）から回答があった。有効回答数は９名（有効回答率 100%）であった。回答者の性別は男性１名、女性８名、年齢は 10 歳代が２名、20 歳代が６名、30 歳代が１名だった。所属は、高校生が１名、大学生が４名、大学院生が１名、団体に所属している社会人が２名、団体に所属していない社会人が１名だった。居住地は、鳥取県が２名、鳥取県を除く中国地方が２名、関東地方が５名だった（表２）。これらの結果から、回答者はほとんどが女性で、年齢は 20 歳代が最も多いことがわかる。また、大学生と大学院生を合わせた現役学生の出演が多く、その多くが鳥取県外に居住していることもわかる。

これまでの当会への出演状況については、当会を知ったきっかけは「事務局や過去の出演者からの

表２　回答者の基本属性（n＝９）

性別	男性	1
	女性	8
年齢	10歳代	2
	20歳代	6
	30歳代	1
所属	高校生	1
	大学生	4
	大学院生	1
	社会人（団体に所属している）	2
	社会人（団体に所属していない	1
居住地	鳥取県	2
	中国地方（鳥取県を除く）	2
	関東地方	5

表３　これまでの当会の出演状況（n＝９）

当会を知った方法	事務局や過去の参加者からの案内	7
	SNS（InstagramやTwitterなど）	2
出演回数	初めて	1
	2回目	3
	3回目	1
	4回目	1
	6回目	3

案内で」が７名、「SNS（Instagram や Twitter など）で」が２名だった。これまでの出演状況は「初めて」が１名、「２回目」が３名、「３回目」が１名、「４回目」が１名、「６回目」が３名だった（表３）。つまり、当会の関係者からの案内をきっかけに出演し、その後も継続して当会へ出演している回答者が多いことがわかる。

これまでの当会へ出演したことによる、当会の目的に対する回答者の状況については、自分の知名度が上がったと思うかは「ややそう思う」が２名、「わからない」が６名、「無回答」が１名だった。出演者同士のつながりが持てたかは、「そう思う」が３名、「ややそう思う」が４名、「わからない」が１名、「無回答」が１名だった。他の出演者から刺激を受け、切磋琢磨するきっかけを得たかは、「そう思う」が５名、「ややそう思う」が３名、「無回答」が１名だった（表４）。当会の目的のうち、「つながり」と「刺激」に関しては肯定的な回答が多いが、「知名度」に関しては「わからない」の回答が最も多い結果となった。ただし、このうち無回答は今回の出演が「初めて」の回答者である。

今回（2022 年度）出演した公演は、「有料公演」が２名、「無料公演」が６名、「無回答」が１名だった。今回（2022 年度）の公演へ出演したことによる、当会の目的に対する回答者の状況については、自分の知名度が上がったかは、「そう思う」が１名、「ややそう思う」が１名、「わからない」が７名だった。出演者同士のつながりが持てたかは、「そう思う」が３名、「ややそう思う」が６名だった。他の出演者から刺激を受け、切磋琢磨するきっかけを得たかは、「そう思う」が６名、「ややそう思う」が３名だった（表４）。前述（３）と同様に、「つながり」と「刺激」に関しては肯定的な回答が多く、「知名度」に関しては「わからない」の回答が最も多い結果となった。

表４　３つの目的に対する満足度

			合計	そう思う	ややそう思う	わからない	ややそう思わない	そう思わない	無回答
有料公演出演者	これまでの公演	知名度の向上	2	-	2	-	-	-	-
		つながり	2	1	1	-	-	-	-
		刺激	2	1	1	-	-	-	-
	今回の公演	知名度の向上	2	-	2	-	-	-	-
		つながり	2	1	1	-	-	-	-
		刺激	2	1	1	-	-	-	-
無料公演出演者	これまでの公演	知名度の向上	7	-	-	6	-	-	1
		つながり	7	2	3	1	-	-	1
		刺激	7	4	2				1
	今回の公演	知名度の向上	7	-	-	7	-	-	-
		つながり	7	2	5	-	-	-	-
		刺激	7	5	2	-	-	-	-

今後の当会への出演希望は、「ぜひ出演したい」が８名、「わからない」が１名だった。どの公演に出演したいかは、「有料の公演」（若き音楽家のためのおさらい会@米子コンサートシリーズ）が３名、「無料の公演」（若き音楽家のためのおさらい会@米子）が６名だった。ほとんどの回答者が今後も出演を希望しているが、有料公演より無料公演への出演希望が多かった（図２）。

当会への感想や意見については、地元で演奏する機会の提供と、出演者同士の交流や切磋琢磨する

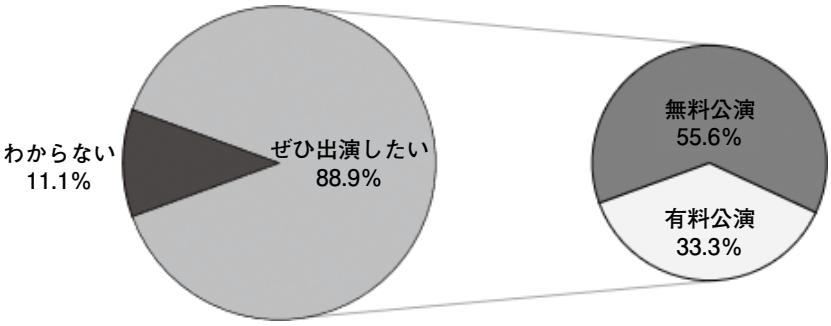

図２　今後の当会への出演希望

ことについて肯定的な意見が多かった。

【考　察】

当会への満足度は、「つながり」や「刺激」に関してはこれまでの出演と今回の出演で大きな差異はなかったが、「知名度の向上」において有料公演と無料公演の出演者で結果が分かれた（表４）。当会の目的のうち、「つながり」や「刺激」はやや内的な目的であることに対し、「知名度の向上」は外部へ向けられた目的である。チケット料金の有無を軸にした場合、有料公演でプロフェッショナルとして演奏する立場ではないことで、演奏に対する責任が発生しにくく、無料公演の出演者にとって責任をもって宣伝するまでに至らないことが要因として考えられる。

また、今回は両公演の情報を１枚のチラシに収め、同時に宣伝したため、宣伝の量は同じであった。しかし、本格的な演奏会である有料公演のほうが対外的に認識され、知名度の向上に影響すると無料公演の出演者が無意識に認識した可能性もある。そのため、無料公演の出演者は「知名度の向上」を目的としていないことが考えられる。さらに、有料公演に出演した回答者は、自分の知名度がやや上がったと考える理由に「終演後に知らないお客様からもたくさん声をかけていただいた」ことや、「取材を受け、新聞に写真付きで掲載された」ことを挙げている。この取材は有料公演へのものであり、翌日の 2022 年 12 月 28 日付の日本海新聞に掲載された[2)]。記事にはこの日の無料公演の情報も記載されていたが、このような差も今回の結果につながったと考えられる。

【課　題】

今回は、両公演の出演者を調査の対象として実施し、いずれも内的な側面をもつ「つながり」や「刺激」の満足度が高い点において共通し、外的な側面をもつ「知名度の向上」は今回の両公演の出演者間で満足度に差があった点で示唆を得ることができた。他方、「知名度の向上」が両公演の出演者間で異なった理由を分析するためのデータは取得できなかったことが本調査で積み残された課題となった。

今回の調査を踏まえ、外的な側面をもつ「知名度の向上」の観点から、次回の調査は「知名度の向上」の満足度に焦点を当てたデータの取得・分析を実施するとともに、知名度向上の主要なファクターである当会各公演の観客を対象とすることで、より多角的な分析を実施することとしたい。

《引用・参考文献》

１）小泉元宏「市民社会との関わりから見た音楽祭研究に向けて―『サイトウ・キネン・フェスティバル松本』における市民社会との関わりを事例として―」『音楽教育学』第 39 巻２号、2009、pp. 12–24.

２）「伸びやか歌声、幻想的打楽器　若き音楽家のためのおさらい会@米子　新たな“ステージ”開催」『日本海新聞』2022 年 12 月 28 日付、21 面